

(こくさいか山口 2006年10→12月号掲載記事)

～10組に1組は国際結婚～

下関市総合政策部国際課
(釜山広域市派遣職員)
久保 伸子

4月に釜山広域市役所で働き始めて、ほぼ6カ月が経ちました。この間、買い物や銀行窓口での手続きの際などに、私が最近韓国に来たと知ると「ああ、結婚して来たのね」「夫は韓国人ですか？」などと、よく言われたものです。国際結婚という言葉も、外国で暮らす独身の身としては決して縁遠いものではなく、少なからず関心もあるところです。

■急増する国際結婚

7月に釜山発展研究院から発刊された『女性結婚移民者の状況および政策方向』という報告書によると、昨年釜山で結婚した1万6973組のうち10.4%に当たる1977組が国際結婚だったということです。釜山で2001年に4.9%だった国際結婚率は、2002年5.2%、2003年6.9%、2004年9.6%と年ごとに加速して増え、昨年2005年にはついに10%を超えたのです。

国際結婚の内訳ですが、性別では、2001年から5年間の国際結婚のうち韓国人男性と外国人女性との結婚が78.3%と絶対多数を占め、外国人女性の出身国は、中国74.5%、ベトナム7.5%、ロシア3.8%の順でした。

報告書により、国際結婚した韓国人男性の平均年齢は2001年の40.1歳から2004年の41.8歳へと上昇していること、2001年に41%だった再婚比率も2004年には46.9%と高くなっていることが分かりました。また、男性の学歴は、高卒が全体の62.6%と最も多く、中卒16.1%、大卒以上15.7%の順で、大部分が低所得層で経済的に困難な状況であると分析されました。

(※9月6日、国会保健福祉委員会で報告された『国際結婚の現状』によると、昨年韓国内の総婚姻件数の13.6%が国際結婚。特に、農・漁業に従事する男性が外国人女性と結婚した割合は35.9%にも上ったと報告された。)

■問題は山積

報告書によって見えるのは、韓国内で結婚相手が見つからない男性(年齢が高い、再婚、所得・学歴が高くないなどの理由)が、相手を外国人女性に求めている実態です。外国人女性との結婚には多くは結婚仲介業者が介在します。相手を求める韓国人男性が先方の国を訪れ、見合いをして花嫁を決定し、ほどなく花嫁が韓国に入国…というのが概ねのパターンのようです。



地下鉄のフリーペーパーに毎日のように掲載される結婚仲介業者の広告。
国際（ベトナム/日本）・国内結婚」というタイトルの下に、「純粋でしとやかなベトナム女性との出会い/花嫁入国後に韓国語教育施行」との宣伝文が見える。

私が仕事の傍ら通っている大学の韓国語教室で、以前、初級クラスに参加していた中国、ベトナムの女性は、結婚のため韓国に移民して来たということでした。ほとんど言葉ができない状態で外国に行き、結婚する…ということが信じられませんでした。彼女たちの夫はきちんとした仕事を持っていて収入もあり、妻に語学の学習をさせようという気持ちもお金もあるので、彼女たちは幸せな方なのだとか…。彼女たちの、やはり韓国人と結婚するために韓国に来た友人の中には、夫から実際に暴力を受けている人もあり、言葉を習うこともできない場合が多いとのことでした。

先の報告書を発表した釜山発展研究院関係者は、特に女性結婚移民者たちが多く居住している地域に支援センターをまず設置し、特化した経済活動支援政策を開発するなどの対策準備が火急であるとしています。今後、釜山に限らず韓国の国際結婚率はますます増える可能性が高いのですが、その受け入れ態勢はまだ整っていないと言わざるを得ません。行政をはじめ各種団体などによる、語学講座、医療、職業教育、法律相談などの支援が早急に必要とされています。